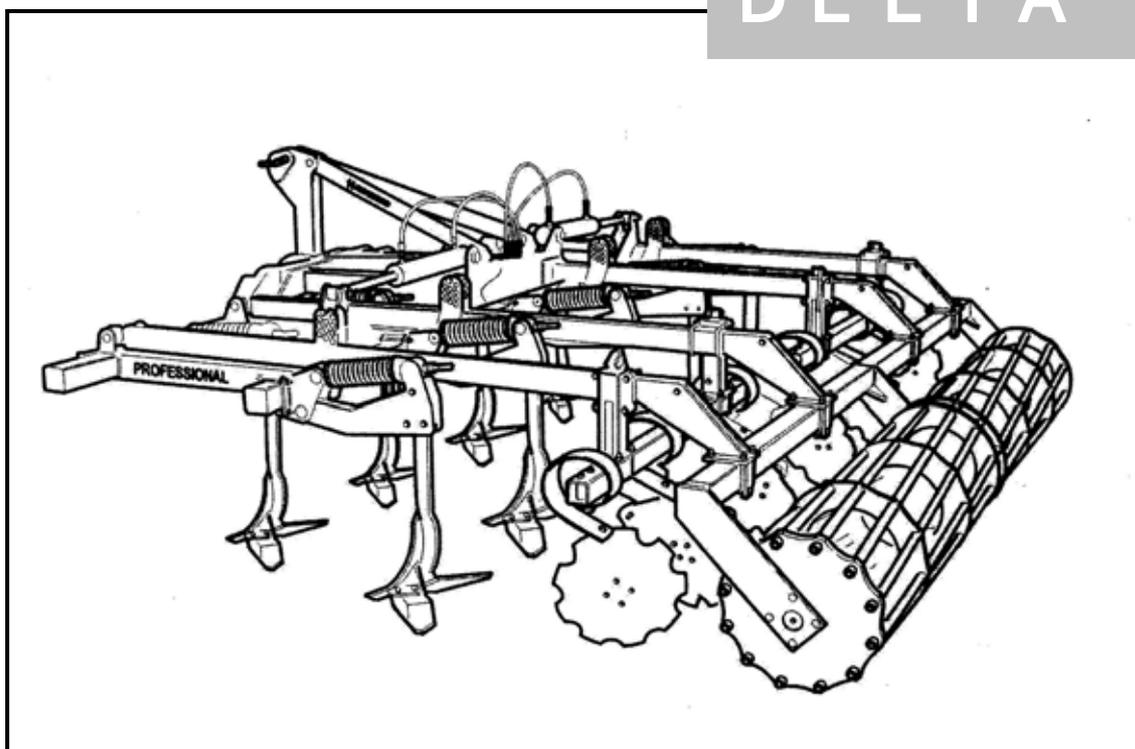




リジッドフレックス  
取り扱い説明書

DELTA



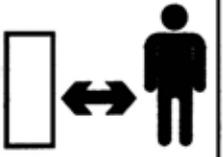
## 安全表記

機械に貼付されているこれらのステッカーは安全に関する警告やアドバイスを分かり易く表したものです。

次のページにこれらのステッカーが機械のどの場所に貼られているかが記載されています。

	<p>1</p> <p>作業を行う前に説明書をよく読んでください。</p>
	

	<p>2</p> <p>機械に挟まれる恐れがありますので、可動部分に手を近づけないでください。</p>
	

<p>回転中のベリリグディスクは非常に危険ですので、十分な距離を置いてください。</p>	<p>3</p>
	

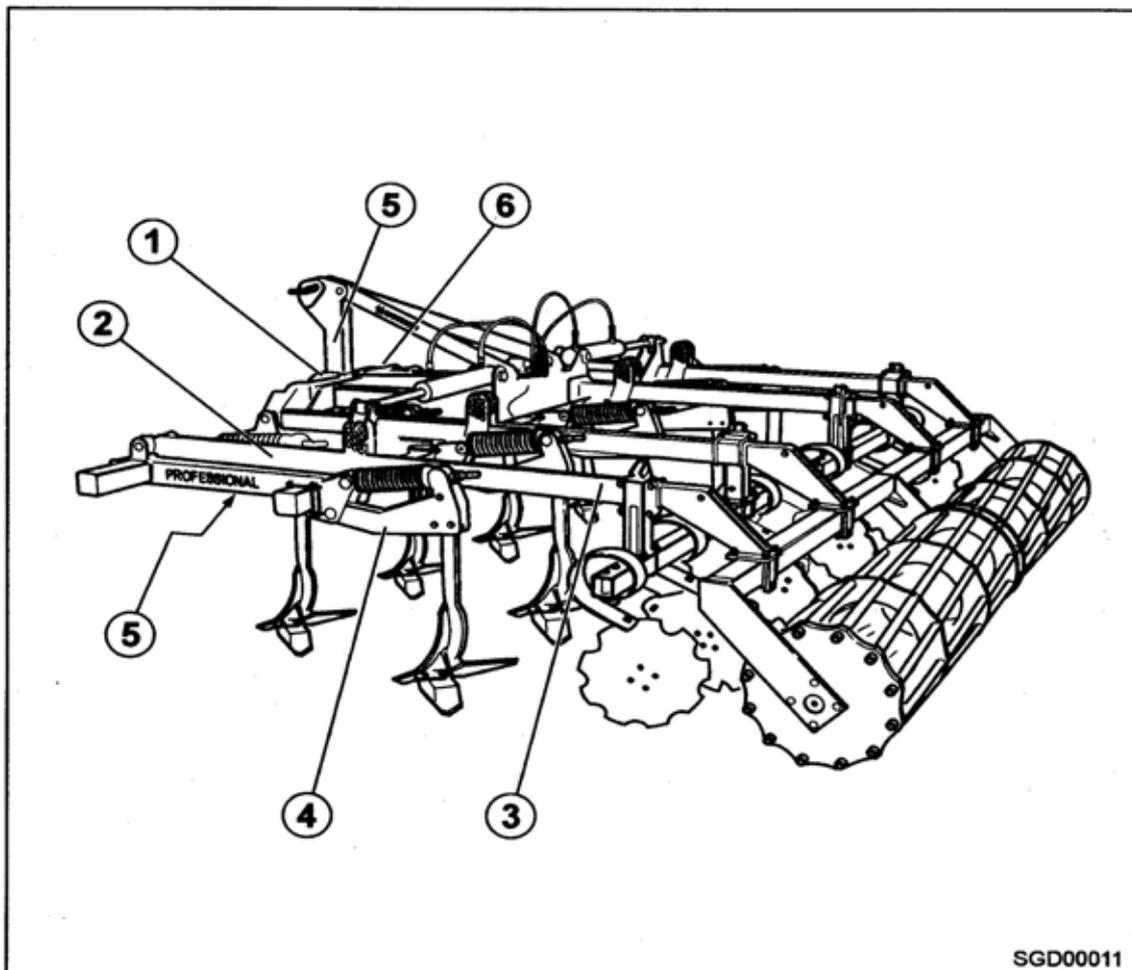
	<p>4</p> <p>メンテナンスを行う前に説明書をよく読んでください。</p>
	

<p>折り畳みフレームの側に近づかないでください。</p>	<p>5</p>
	

## 安全表記

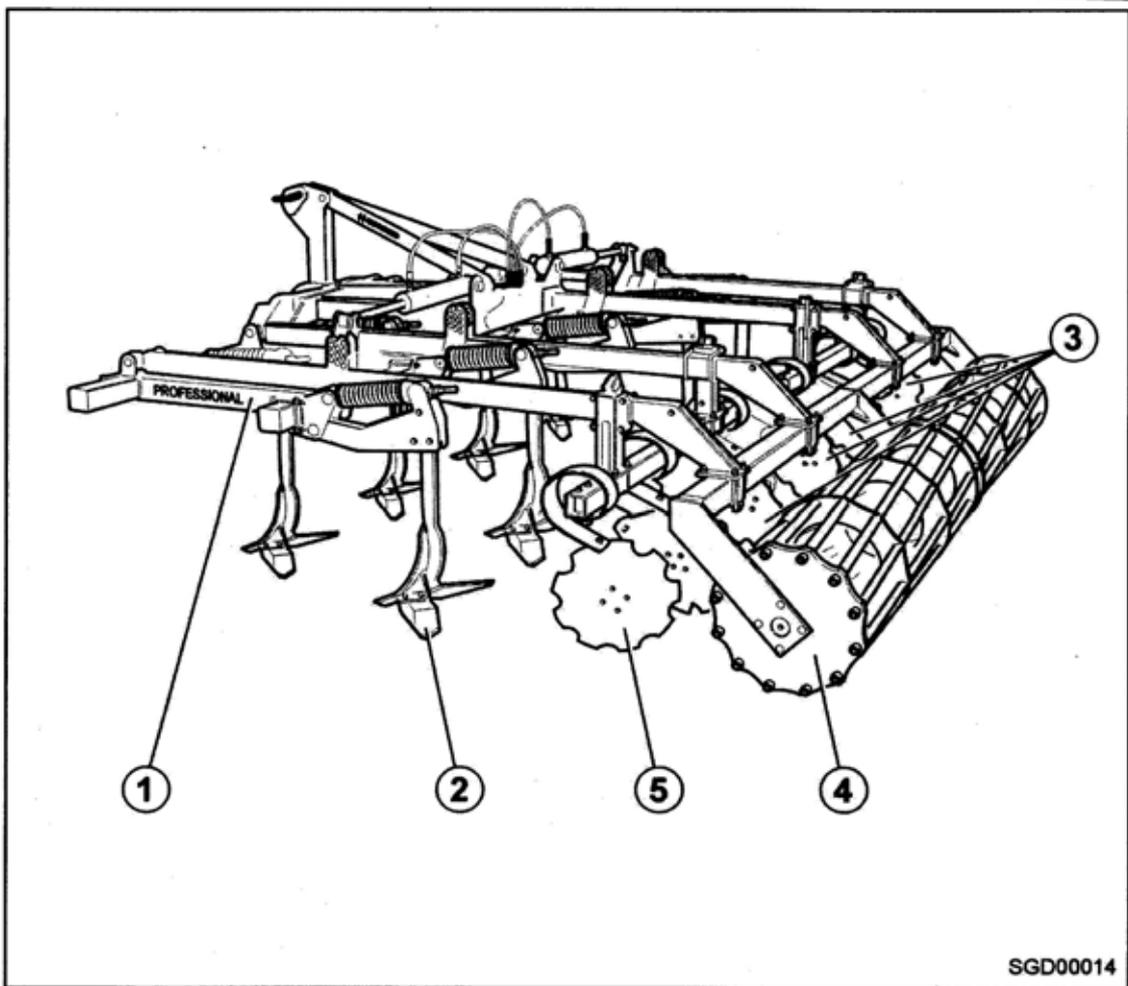
安全に関する警告ステッカーは以下の場所に貼付してあります。

もし汚れや破損でステッカーが見えなくなった場合は新しいものに交換してください。



技術仕様書

Working width/ Equipment variant	HSP 300 HSF 300	HSP 400 HSF 400	HSP 400 H HSF 400 H	HSP 500 H HSF 500 H	HSP 600 H HSP 600 H
Spring overload protection	/ x	/ x	/ x	/ x	/ x
3.0 m - No. of tines - No. of discs	7 - 6				
4.0 m - No. of tines - No. of discs		9 - 8	9 - 8		
5.0 m - No. of tines - No. of discs				11 - 10	
6.0 m - No. of tines - No. of discs					13 - 12
HP demand	90 - 150	110 - 180	110 - 180	130 - 220	180 - 260
Weight kg	785 / 1080	1040 / 1460	1480 / 1880	1610 / 2080	1960 / 2480
Cage roller 450 mm Ø	145 kg	190 kg	230 kg	290 kg	315 kg
Cage roller 550 mm Ø	225 kg	270 kg	300 kg	370 kg	450 kg
Cage roller 630 mm Ø	260 kg	310 kg	340 kg	440 kg	520 kg
Cage roller 450 mm Ø	315 kg	303 kg	450 kg	550 kg	650 kg
Transport width cm	300	400	300*	300*	300*



### フレーム(1)

フレームは 100mm 角のパイプで作られており、フレームの地上高は 800mm でタイヤが取り付けられている前後フレームの間隔は 1000mm です。

### シアー(2)

シアーチップ、ガイドプレート、シアーフット、ウイングシアーなどはそれぞれ個別に交換することができます。

### ベリングディスク(3)

ベリングディスクは凸凹形状のエッジを有し、直径は 460mm です。それらは二枚一組でスプリングタイヤに取り付けられています。ケージローラーとベリングディスクは一つのユニットになっているので同じ作業深さに設定することができます。

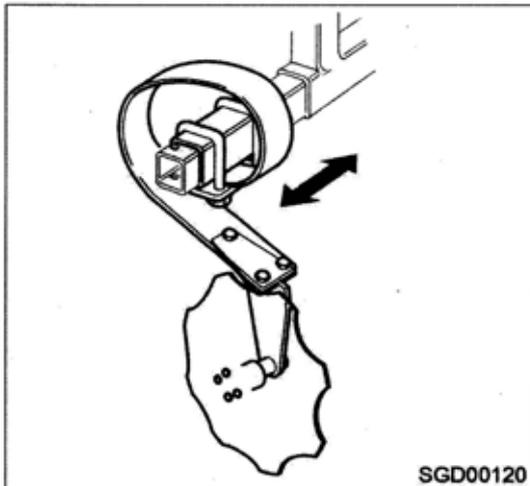
### ケージローラー(4)

4 種の異なったケージローラーが選べます。

- 標準ローラー：直径 450mm、550mm、630mm
- タンデムローラー：450mm

ケージローラーによって作業機を正確な耕深に設定することができます。

SGD00014



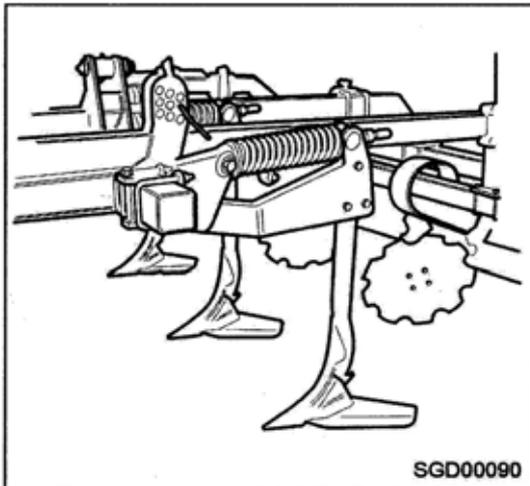
SGD00120

### エッジディスク(5)

両エッジのディスクはその他のベリングディスクとは異なった働きをします、このディスクによって土壌を盛り上げることなく作業することができます。エッジディスクはディスクキャリアフレームの両端に取り付けられます。エッジディスクはインナーディスクと違い、作業幅を超えて飛ばされた土壌をもとに戻す役目を持っています。

#### ！注意

道路走行時、エッジディスクはフレームの中心方向に寄せておいてください。



SGD00090

### スプリング式安全装置

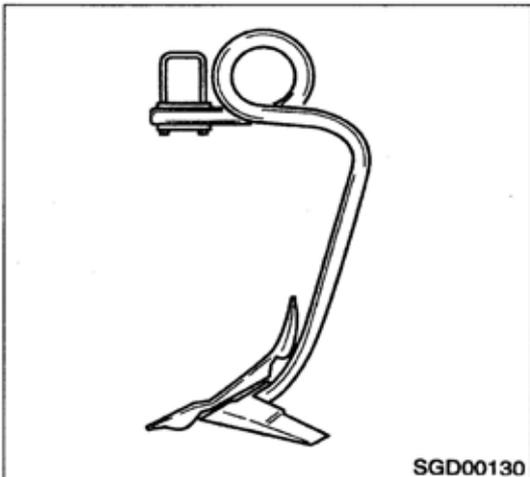
安全装置はタイヤを破損、磨耗などから守ります。もしタイヤが大きな石などに当たったらタイヤは最大 400mm 上方に跳ね上がります。その後タイヤはスプリングの力で自動的に元の位置に戻ります。

### コイルスプリングタイヤ

厚さ 35mm のスプリングタイヤを装着することもできます。その場合フレーム高さは 720mm になります。タイヤホルダはネジで取り付けます。

### 油圧折り畳みフレーム

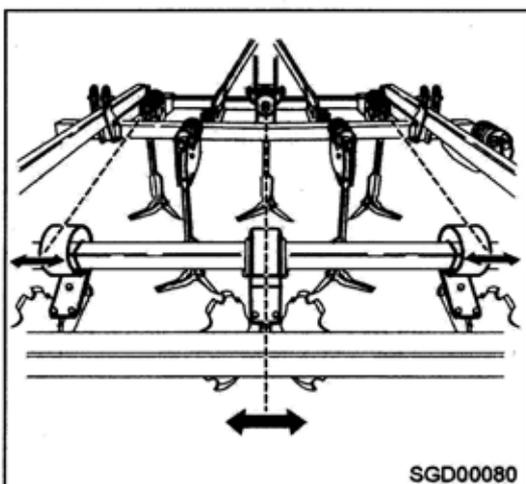
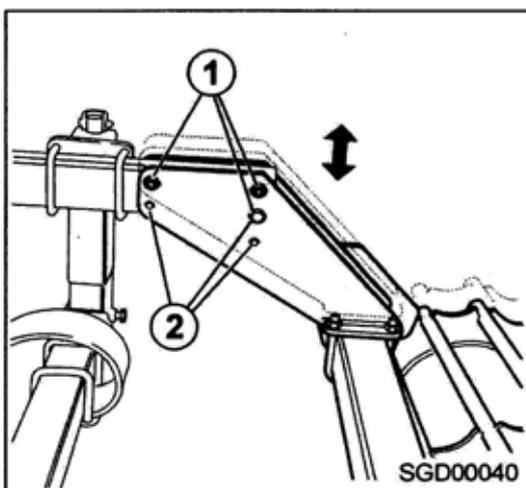
作業幅 4m 以上の加圧ロータは油圧折り畳み式のフレームを選択することもできます。



SGD00130

油圧折り畳み式フレームは道路走行時に道路法規に適合するように移動幅を狭くするためのものです。

## 試運転の前に



## 全般

- 全てのボルトとナットは作業機の使用開始前に点検して、必要なら増し締めしてください
- 全てのグリースポイントをグリースアップしてください。給脂箇所は別表を参照してください

## 鎮圧の基本設定

もしスパンが限られているのであれば、鎮圧機の知ズームはケージローラーと一緒に分割して運搬することができます。

この場合、知ズームはパラレルケージに接続しておく必要があります

## 注意！

図の が標準のセッティング高さです。 の位置に変更すると 50mm 高くすることができます

## ベリングディスクのアライメント

## 注意！

ペアになっているベリングディスクは第1列目のシェアの真後ろに位置するようにしてください。

以下の手順でベリングディスクの位置を調整してください

- 取り付け金具を緩めます
- 知ズームに沿って移動します
- 取り付け金具を締めます

## 試運転

### トラクターの準備

作業機をトラクターに接続する前に、トラクターを使用可能な常態にしておいてください。

### タイヤ

タイヤ空気圧が左右同じになるようにしてください。適正空気圧はトラクターの説明書を参照してください

### ワ-リンク

ワ-ア-ムの左右高さが同じになるように調整してください

### リミットチェ-ン/スチ-ライザ-

リミットチェ-ン/スチ-ライザ-は作業中機械が横方向に動くことができるように調整しておく必要があります。

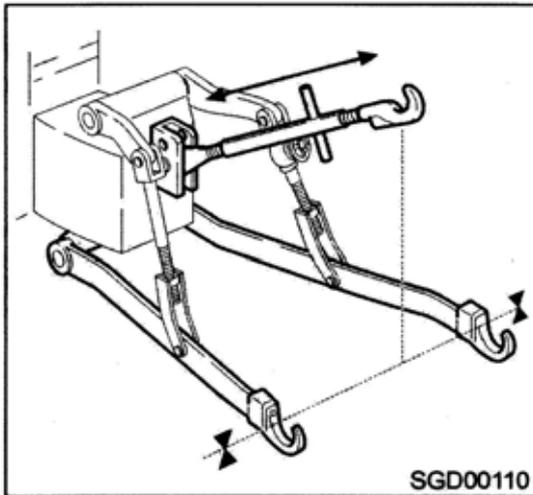
### コントロールセッティング

トラクターの油圧コントロールは《フロント》または《ドラフトコントロール》ポジションにしてください

### フロントバ-ラスト

- トラクターのフロントに十分なカウンターウ-イトが添加されていることを確認してください
- フロントアクスルにはトラクター重量の最低でも 20% がかかっていなければなりません。これはトラクターを安全に運行させるうえで重要なことです。トラクターの説明書を参照してください

## トラクターに作業機を安全に取り付けるために



脱着作業中に、トラクターと作業機の間には誰も立ち入らないようにしてください。また作業機の作動範囲には立ち入らないようにしてください

### 3点ヒッチ

- 作業機とトラクターの3点アタッチメントのカーゴリは互いに同じでなければなりません
- もし一致しなければトラクター側の3点リンクを変更してください

### ロウリンク

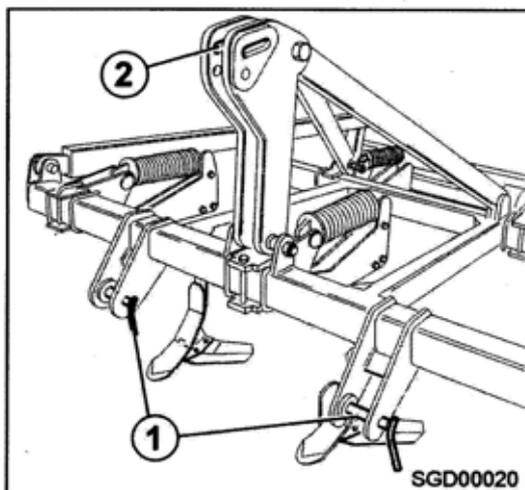
- トラクター-ロウリンクは水平になるように調整してください。
- ロウリンクのリミットチェーンやスラストライガーはある程度横方向に作業機が動く余裕を持たせておいてください。
- 公道を走行する場合は作業機が横揺れしないように調整してください

作業機をトラクターに接続するときは、以下の状態で行ってください

- 作業機は硬く締まった平坦な場所に駐機してください
- トラクターの油圧システムは操作ポジションにしてください

### 接続手順

1. ローリンクを作業機のピン高さ以下になるまで下げてください
2. 作業機のヒッチングポイントの真下にローリンクのフックが位置するようにトラクターをバックさせてください
3. 作業機のクイックカップリングのボールをトラクターのフックが掴むまでリンクジを上昇させます
4. フックを確実にロックします
5. トップリンクをアップキャッチポイントに取り付けます
6. トップリンクを確実にロックします



**トップリンクとローリンクのカップリングボールは安全金具(リンピン)が無くなっていないことを確認してください**

**油圧ホースを接続するときはトラクター及び作業機の油圧システム圧力がリリースされていることを確認してください。**

7. 油圧折り畳みフレームを操作する場合、作業機のストップバルブを開ける前に油圧ホースをトラクターに接続してください

## 作業機の取り外し

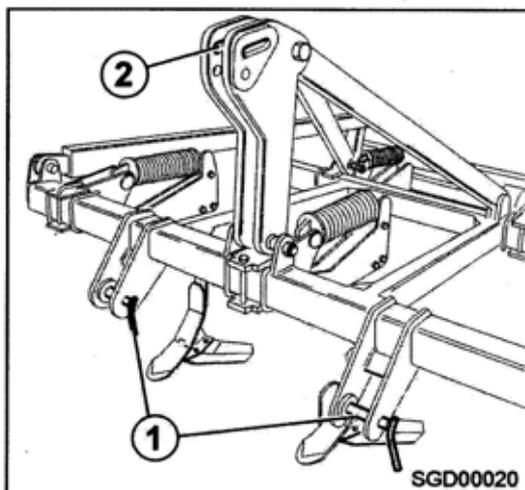
作業機を駐機する場合、地面が硬く締まっ  
ていて平らであることを確認してください。  
ルームを折り畳む場合や作業機を下ろす場合  
はトラクターと作業機の間誰にも居ないこと  
を確認してください

### 準備

- 平らで硬く締まった場所まで移動して  
ください
- トラクターの油圧システムはコントロール  
ポジションにしてください

### 取り外し手順

1. 作業機を完全に下ろしてください
2. 折り畳みルームを装備している場合、完  
全に折り畳み、システムの油圧を抜いてか  
ら油圧ホースを取り外してください
3. 作業機の からトップリンクを取り外しま  
す
4. 叩リンクを叩ホート から取り外します

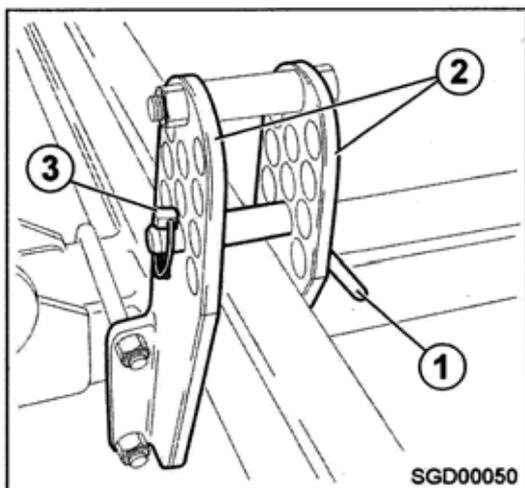


叩リンクを取り外す時は特に注意してくださ  
い。作業機が傾いたり落下したりする危険  
性があります。

トラクターから切り離した後、作業機が安定して  
いることを確認してください。

油圧折り畳みルームを装備している機械であ  
ればストップバルブを閉じて、油圧金具が汚れ  
ないようにソケットに入れて駐機してください。

## 作業



### タイ作業深さの設定

必ずトラクターのエンジンを切ってから調整してください。

イグニッションを抜いてパーキングブレーキをかけてください。

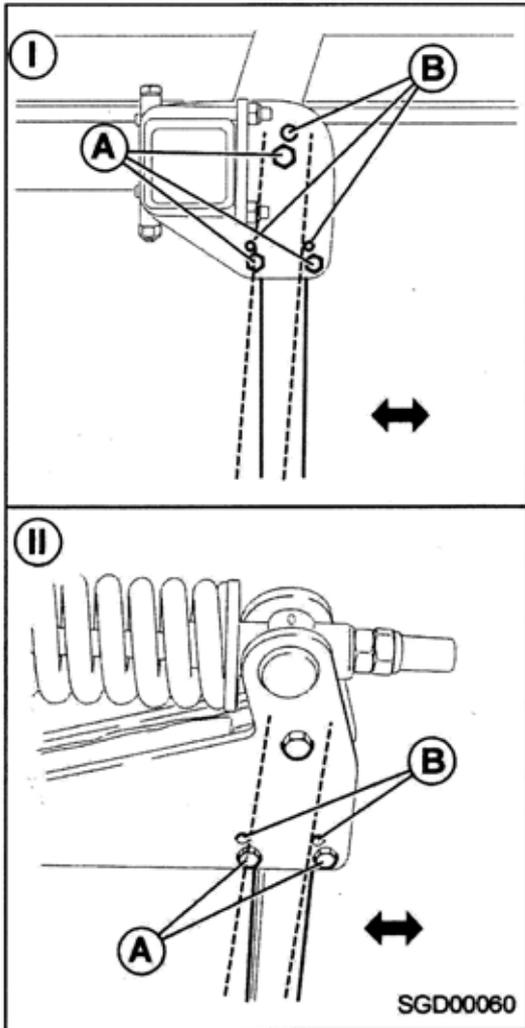
シアーは 8～10 の深さで働かなければなりません。もし起伏や深い溝がある場合には少し深めに調整する必要があります。

作業深さの調整はケージローラーのホイスアーム両端にある穴の開いたプレートで行います。

調整中にケージローラー、ホイスアーム、ベリングディスクなどに挟まれないように注意してください。

作業深さは以下の手順で調整します

1. リンピンを抜きます
2. ピンを抜いてプレートの別の位置に移動します
  1. 低い位置の穴 = 作業深さが浅くなります
  2. 高い位置の穴 = 作業深さが深くなります
3. ピンとリンピンを確実に入れます



### シアーポジション

タイ又はシアーのポジションはスティーブ又はフラットの何れかに選択することができます

#### スティーブシアーポジション(A)

工場出荷時はスティーブシアーポジションに設定されています

スティーブシアーポジションでは固い、又は乾燥した土壌での作業に適しています

#### フラットシアーポジション(B)

フラットシアーポジションに設定するとシアーチップとリングシアーの高さが同じになるので、牽引抵抗が低くなります。

このポジションは重土質での作業や、小さなトラクターでの作業に適しています。

#### シアーポジションの変更

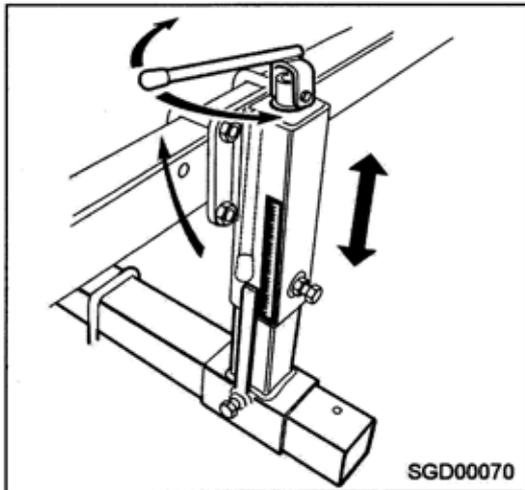
シアーポジションの変更はトラクターのエンジンを切ってから行ってください

エンジンキーを抜いて駐車ブレーキをかけてください

作業機を適切なスタンドに載せてください

I = リジッドシアーシステム

II = スプリング式安全装置付きシアーシステム



### リンクディスクの高さ調整を行います

ディスク作業深さは、タイン作業深さの約半分に設定します。タインの通過した後にできた畝または盛り上がった土壌はリンクディスクによって平らにされます

作業深さの調整は以下の手順で行います

**調整は作業機が完全に下降した状態で、トラクターのエンジンが止まっている時のみ行うようにしてください。**

1. ハンドルを水平位置にしてください
2. ハンドルを左右に回すことでリンクディスクの高さを上下させることができます
3. インジケータロッドの目盛りを参考にしながら調整してください
4. 反対側も同様に調整してください
5. ハンドルを畳んでください

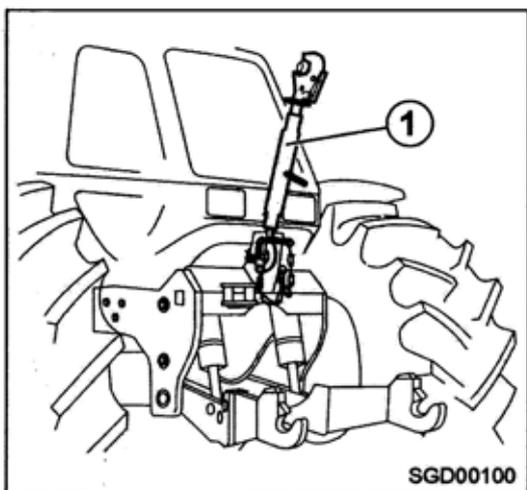
**もしケージローラー全幅に渡って均一に土が満たされているか、又は土に覆われていれば、リンクディスクの深さ調整が最も適切な位置にされていることとなります。**

- リンクディスク直後のケージローラーに付着する土の量が他の部分に付着する土より多いようであれば、ディスク深さ調整が深すぎることとなります
- リンクディスク直後のケージローラーに付着する土の量が他の部分に付着する土より少ないようであれば、ディスク深さ調整が浅すぎることとなります

**ディスクの深さ調整をした後に再びタインの深さ調整をする必要はありません**

### ケージローラーのセッティング

ケージローラーの土壌鎮圧効果はトップリンクの角度を調整することで可能です。トラクターの油圧コントロールは《フォート》か《ドラフトコントロール》ポジションにしておいてください。もしスリップが多いようであれば軽いセッティングにしてください



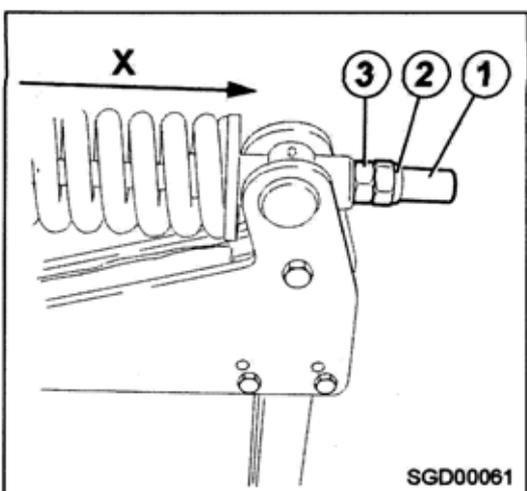
3点ヒッチを取り扱う時はトラクターと作業機の間  
に絶対入り込まないでください。

トップリンクの調整は作業機が完全に下降した  
状態で行ってください

トップリンク長さ(短) = 鎮圧効果小

トップリンク長さ(長) = 鎮圧効果大

トップリンクはトラクターから作業機に対し下がるよ  
うな角度には調整しないでください



### 安全装置の調整

安全装置はスプリングの張力によって調整で  
きます

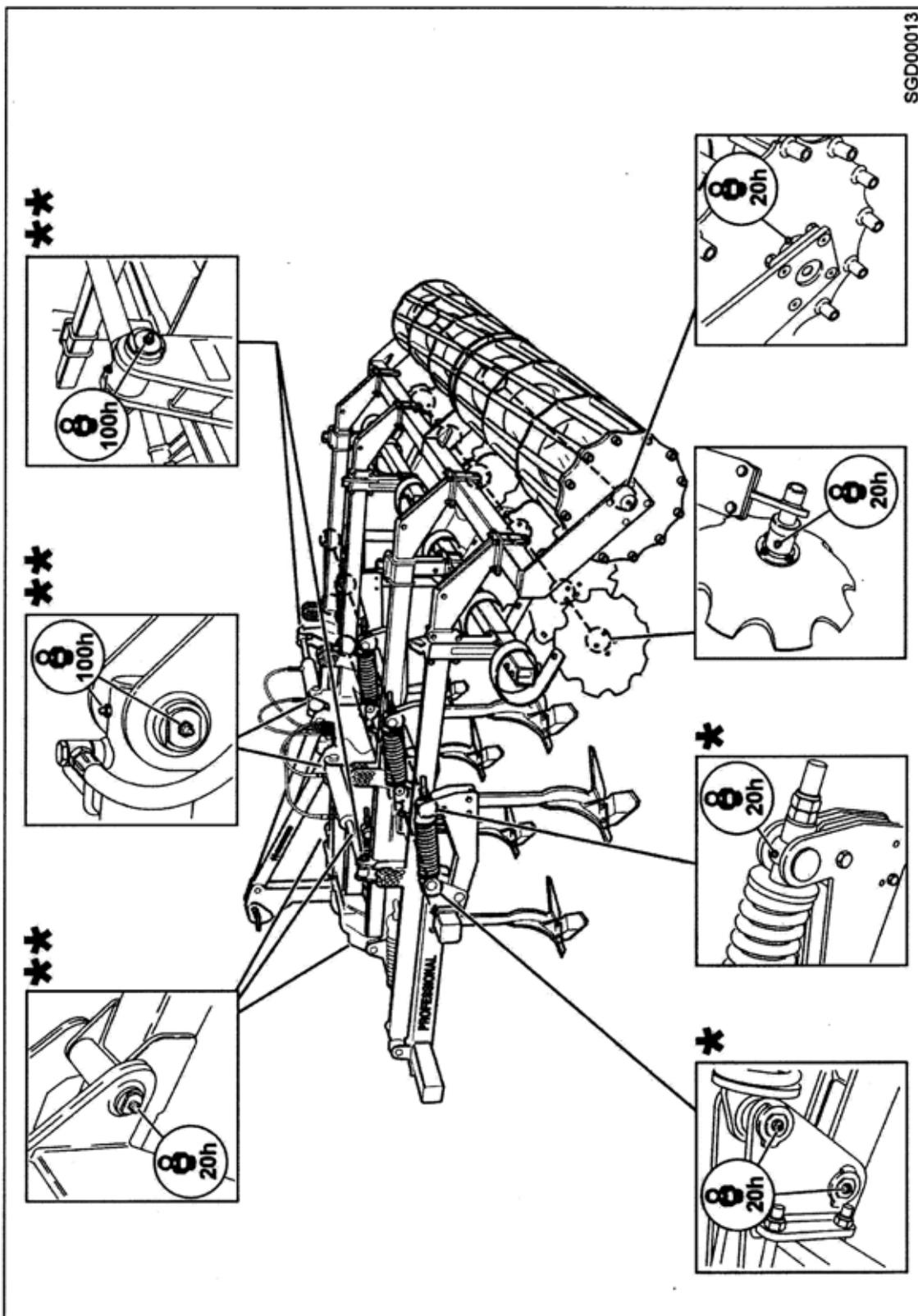
1. キャップを外します
2. ロックナットを緩めます
3. ナットを回してスプリング長を変更します  
スプリング長(X) > 405mm : 弛緩  
スプリング長(X) = 320mm : 最適
4. ロックナットを締め付けてキャップを被せます

トラブルシューティング

不具合内容	原因	対策
ケーシングローラーが深く入り過ぎる。又はケーシングローラーが土壌を押し出している	ケーシングローラーの圧が強すぎる	トップリンクを縮めてください
		トラクターのドラフトコントロールを調整してください
		より大径のローラーかタンデムローラーを使用してください
ケーシングローラーの後ろに溝や畝が残る	タインの通過によって発生した溝や畝が、その後を通過するレバリングディスクによって十分に均平されていない	レバリングディスクの作業深さを変更してください。レバリングディスクはタイン作業深さの半分の作業深さに調整してください。
レバリングディスク直後のケーシングローラー土壌付着度合いが、他の部分に比べて明らかに少ない	レバリングディスクの作業深さが深すぎる	レバリングディスクのセッティングを高い位置に変更してください
レバリングディスク直後のケーシングローラー土壌付着度合いが、他の部分に比べて明らかに多い	レバリングディスクの作業深さが浅い	レバリングディスクのセッティングを低い位置に変更してください
スプリング式安全装置が継続的に作動する	スプリングテンションが弱すぎる	スプリングテンションを増加してください
	タイン作業深さが深すぎる	タインの作業深さを浅くしてください
	シアーポジション負荷が多過ぎる	シアー侵入角度を浅くしてください

# メンテナンス(グリースアップポイント)

\*\*=折り畳み式フルム装着機のみ \* =スプリング式安全装置装着機のみ



### シアーピン仕様

スプリング式安全装置装着機以外の機械は全て各タイヤにシアーピンを装着してあります。これらはオーバーロードからフレームとタイヤを保護する役目を持っています

もしシアーピンが飛んだ場合、以下の手順で交換してください

シアーピンを交換する時は、適切な工具を使用してください

1. 作業機を数センチ上昇させてください
2. 残っているシアーピンの欠片を取り除いてください
3. タイヤを元の位置に戻してください
4. 新しいシアーピンを取り付けてください

シアーピンは必ず以下に記載されている物のみを使用してください。

スプリング式安全装置付き

301212655 ナット

307212125 ナット

スプリング式安全装置無し

301212855 ナット

307212125 ナット

